

- ・自宅での事前検温、マスクの着用、入館時の手指消毒にご協力をお願いします。
- ・当日、平熱を超える発熱や体調不良がある場合は、来館をご遠慮ください。

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp  
 田無公民館 休館中、問い合わせは柳沢公民館へ tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
 ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



講師とパネリスト3人による公開座談会では、ひばりが丘公民館の30周年を振り返り、地域で果たしてきた役割やこれからの可能性について意見交換をいたしました。その一部を紹介します。新藤 西東京市公民館の魅力として、まず一つ目に感じるのは、都市における集いの場として非

常に活発な活動があるという事です。人間関係が希薄で集まる場所も少ない、という都市のイメージを覆すものがあります。二つ目は、公民館から地域が見え、ここに暮らしているという実感が持てる場所だということ。三つ目は、そうしたことを考える人の輪と蓄積があることです。この座談会もそうですが、西東京市の公民館は、学びを次の世代につなげていくという思いが強いと感じます。また多世代交流の拠点としてロビーの賑わいがあり、支える職員力も大きいと思います。

森 私たちの命には限りがありますが、公民館での学び・活動はずっと続いていきますし、続いていかなければいけないと思います。今コロナ禍で難しくなっています。その中で、それによって精神的な面を助けるような人とのつながりが生まれ、会って話をしたり、音楽を奏でたりそれを聴いたりといったことを通じて、いろいろな能力を身に付けながら交流し合うことのできる拠点であってほしいと思います。

西原 今年1月の緊急事態宣言では公民館の開館時間は夜8時までとなり、休館にはなりませんでしたが、利用する、しないは自由です。が、私たちが公民館に来ることは不要不急なことではないと思っています。集う場所の存在が、生活の中でいかに大事であるかしみじみ感じます。職員に何でも相談でき、「つながり」をもった活動をしている実感に支えられています。このような形が続いてくれることを望んでいます。

小沼 昨年春の緊急事態宣言で公民館が臨時休館となり、誰も集まらなくなったことで、公民館という場所がすごく大事であることに、私も含めみなさん気付かれたと思います。今、利用時間の制限はありますが、幸いにも私たちは活動させてもらっています。仲間と直に会って話すことの大切さを改めて実感しています。新藤 今このコロナ禍で、世界中が社会教育活動についてさまざまな模索を行っています。そこで見えてきたことの1つは、私たち、特に弱い立場におかれた人たちの命と暮らしを守る学習や活動が、世界中に広がっていることでした。パネリストのお話にもありましたが、社会教育は不要不急なものではないということ。学ぶことは権利であり、私たちが生きていくために欠かせないものです。今、それがますます大切になっていくのではないのでしょうか。それも踏まえた上で、公民館のこれから「つなぐ・まなぶ・つながる」というキーワードを考えてみたいと思います。

【講師】  
 ◎新藤 浩伸 (東京大学大学院准教授「パネリスト」(利用団体より))  
 ◎森 忠 (ひばりが丘ギターアンサンブル代表)  
 ◎西原 みどり (フルーツパフェひばり代表)  
 ◎小沼 純子 (WAHINE代表)

「ひばりが丘公民館の宝物をたくさん見せていただいた」  
 なお、今回の詳細な報告も含めた「ひばりが丘公民館30周年記念誌」を現在編集作成中です。完成しましたら改めて公民館だよりでお知らせします。

「学ぶことは権利であり、私たちが生きていくために欠かせないものです」  
 最後に「つながり」こと。例えば人と会って話すという当たり前のこと。前向きなメッセージを伝えることができました。今回のフェスティバルは、映像を通して今できることを発表することで、前向きなメッセージを伝えることができました。

社会全体が冬ごもりのような、こんな時期だからこそ、今回のように歴史を振り返り、地道に力を蓄え、語り合おうと、来たるべき新しい社会に向けて重要になってくるのではないかと感じます。

しかしそこには多くの苦勞がありました。部屋の定員や利用時間の制限によって、練習が思うようにできない団体や、高齢のメンバーが多く感染への危惧から活動の再開がなかなかできない団体も複数あったこと、また発表を記録し上映するにあたって使用する楽曲の著作権使用料等を調べるのに手間取ったこと、さらに撮影直前に2回目の緊急事態宣言が発令され参加を辞退せざるを得ない団体が出てしまったことなどです。

今回のフェスティバルは、映像を通して今できることを発表することで、前向きなメッセージを伝えることができました。上映会参加者からは、「たくさんの人と時間をかけられた思いがぎゅっと詰まった作品だった」、「ひばりが丘公民館の宝物をたくさん見せていただいた。一人一人が真剣に取り組む姿、作品の出来ばえ、本当にすごかったです」、「素晴らしいDVDが完成したので、一般に鑑賞できるようにしていただきたい」と温かい声をいただきました。盛況のうちに幕を閉じることができました。

公開座談会  
 「つなぐ・まなぶ・つながる」  
 公民館の未来へ  
 令和3年1月31日実施

「学ぶことは権利であり、私たちが生きていくために欠かせないものです」

「つなぐ・まなぶ・つながる」

「つなぐ・まなぶ・つながる」

「つなぐ・まなぶ・つながる」

「つなぐ・まなぶ・つながる」

学びを未来へ、コロナ禍で見える公民館の役割

ひばりが丘公民館は、旧保谷市時代の平成2年(1990年)4月に開館し、昨年4月に30周年を迎えました。新型コロナウイルスの影響による制約がある中、できる範囲の記念事業として「公開座談会」と、ビデオ上映による「ひばりが丘フェスティバル」を開催しました。

「つなぐ・まなぶ・つながる」

「つなぐ・まなぶ・つながる」

「つなぐ・まなぶ・つながる」

「つなぐ・まなぶ・つながる」

「つなぐ・まなぶ・つながる」  
 公民館の未来へ  
 令和3年1月31日実施

「つなぐ・まなぶ・つながる」

「つなぐ・まなぶ・つながる」

「つなぐ・まなぶ・つながる」

「つなぐ・まなぶ・つながる」

「つなぐ・まなぶ・つながる」